



# 連町通信

安全で安心して暮らせるまちづくりをめざして

発行

釧路市連合町内会

〒085-8505 釧路市黒金町7丁目5番地

釧路市役所内

電話 0154-31-4255

直通電話・Fax 0154-23-2101



連町ホームページ

連町ブログ

## ＝第19回＝ 脳外科が行う認知症・頭痛の治療の変遷

### ドクター磯部の 処方箋

### 処方箋



釧路労災病院  
脳神経外科部長  
磯部 正則

脳外科が行う認知症、頭痛の治療が、少し変わってきました。

（＊）脳腫瘍、慢性硬膜下血種、水頭症が原因の認知症・頭痛は、画像検査で明白であり、多くの場合手術治療で治療できるので、脳外科で以前から今も治療できる脳の病気です。当然脳外科で扱いますし、逆に脳外科に辿り着けなかった場合は、「手術で治るのに受けられないなら残念」と思います。

これらが原因の二次性（続発性）症候性（医学用語で何らかの明らかな病気が原因で起こるという意味）の症状は認知症、頭痛です。画像検査ではなく血液検査などで見つかる髄膜炎、血液異常なども二次性で、手術以外にもその原因の治療で治せる可能性があります。

一方、原因の病気がない場合、明らかでない場合は、医学用語では一次性（原発性）特発性と呼びます。一次性頭痛には、肩こりからの頭痛、風邪気味の頭痛、片頭痛などがありますが、これらは画像検査で何も所見がなく、脳の病気が発生したり悪化はないということ、二次性頭痛のことで手一杯の脳外科医は、「異常ないです」、「心配ないです」、「もう脳外科は来なくていいです」と言ってしまうがちでした。最近、片頭痛の効果的な注射薬が出てからは、頭痛治療を考え直し、投薬の見直しなども、実践するようになりました。

アルツハイマー型認知症（AD）などの、画像検査で明白でない一次性認知症も、今年軽度認知障害（MCI）に対する画期的な新薬が登場して、脳外科でも対応を行うようになって行くと思います。労災病院でも認知症外来を開設し、受診しやすくなった方が良いという話になっています。

新薬は、ADの一因である脳に溜まったアミロイドを減らす効果があるという、これまでになかった作用があり、画期的で期待してしまいます。ただ効果のほどはADが治るとまではいかず、進行を緩徐にできそうということなので、今一つの感じですが、それでもやってみたい治療のひとつでしょう。

ADなど一次性認知症は、新登場の注射薬以外にも、従来薬を駆使して、ある程度症状には対応していただけます。脳外科に相談してください。

しかし、認知症は、止められない加齢も一因であり、病院の薬で治せるものでない現状では、認知症を理解して、医療機関だけでなく、ご家族、地域で受け入れて対応していかなくてはなりません。

（＊）小さな左側の脳腫瘍、慢性硬膜下血種で認知症状が出、それ以上で頭痛が生じ、さらに大きくなると意識障害に。水頭症では認知症状は3大症状の一つ